

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

| | | |
|--------------------------------------|--|-------|
| 名称：ナーサリースクールT&Y本厚木 | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：中村 美津子 | 定員（利用人数）：80名（66名） | |
| 所在地：〒243-0018 厚木市中町3-18-5ソーケン本厚木ビル2階 | | |
| TEL：046-204-7103 | ホームページ： http://www.satori-hoikuen.com/ | |
| 【施設・事業所の概要】 | | |
| 開設年月日：平成30年4月1日 | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人さとり | | |
| 職員数 | 常勤職員：19名 非常勤職員：5名 | |
| 専門職員 | （専門職の名称） 名 | |
| | 園長：1名 保育士：21名 | |
| | 主任保育士：1名 | |
| 施設・設備の概要 | （居室数） | （設備等） |
| | 保育室：3室 | 園庭：なし |
| | トイレ：乳児用：1 | |
| | トイレ：幼児用：1 | |
| | トイレ：職員用：2 | |
| | 調理室：1 事務室：1 | |

③理念・基本方針

【保育理念】

子ども一人ひとりを大切にし、保護者との一体感を持ち、地域との交流を深め、愛される保育園を目指す。

【保育方針】

豊かな人間性と意欲を持った子どもを育成する。

【保育目標】

- ・挨拶のできる子
- ・思いやりを持ち仲よく遊べる子
- ・自分の気持ちを伝えられる子

【園目標】

- ・保護者と保育を通じて子育てを共感しあう
- ・挨拶・笑顔の基本を大切に認め合い、助け合う協働の実現

【令和5年度園目標】

- ・愛情のこもった養護と心の育ち「自己肯定感」を育む保育の展開

- 資質と人間性向上を目指し、意欲的に園運営に参画する職員の育成
- 地域に愛され、保護者と子どもの成長を共に喜び合い、信頼される保育所

④施設・事業所の特徴的な取組

ビルの2階で園庭はありませんが、園周辺には公園が点在し、天候が良い日には各クラス戶外活動に出かけ、公園などで身体を動かしています。日によってテーマを決め長距離を歩き体力増進につなげたり、集団遊びの中から友達同士のルールを学んだりしています。それとともに折々の自然の表情に触れ、採集したものを制作活動で活用するなどの工夫をもって取り組んでいます。

さらに、日常の活動全般において子どもの様子が保護者になるべく伝わるように、幼児クラスにおいては毎日の活動、生活の写真で紹介し子どもの成長を喜び合える環境づくりに努めています。

「サークルタイム」では子ども同士の対話の時間を大切にすることで、他者を認め自分を認め、自分の気持ちを伝えられる子どもに育つように支援しています。外部専門講師による、体操教室を1歳児クラスから取り入れています。子ども達も喜んで参加し、出来ることが増え達成感を感じています。体幹がしっかりとして、椅子にまっすぐ座れる姿も増えました。

登退園システムで、園児登退園時間・職員勤怠を管理し、支払いは電子マネーで決済することで、業務の効率化をはかっています。職責・役割を全職員が周知理解して、行事・担当が決まっていることでクラス運営や行事が円滑に取り組める体制ができています。

職員は、食育・環境の2グループに分かれ、保育の充実と職員間連携を深めています。今年度からは特に虐待について、自分自身と他者の両面から月に一度チェックリストを実施して、絶対に虐待を起こさない取り組みを強化しています。チェックリスト結果をもとに話しあい、クラス・職員の子どもの関わり方で問題となっている点を話し合っって次の保育活動につなげています。

また他クラスに、もしも長く泣かせている場面がある場合などには職員会議で個々に合わせた対応をしている事を職員に周知をして理解してもらっています。発育・家庭環境・子の特性など問題をクラス内だけにとどめず、園全体で一人一人の子どもを支援し育てることを大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|--|
| 評価実施期間 | 令和5年5月1日（契約日） ～ 令和5年11月29日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | - 回（ - 年度） |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子ども一人ひとりを大切にした保育

「子ども一人ひとりを大切に」の保育理念を実現するため、一人ひとりを理解し、丁寧に向き合うことを心がけています。その子のあるがままの姿を受け止め、共感する事を大切にしています。保育園と家庭の生活の流れや連続性を大切にして、子どもが安心できる環境を整え、一人ひとりの思いを受け止めるようにしています。職員は、日々の様子や興味関心、活動に取り組む姿、友だちとの関わりなどを個別に良く観察し、会議や毎日の打ち合わせ等で職員間で共有しています。子どもの個人差を尊重し、各々の意欲や達成感が持てるように援助し、活動や遊びが広がるようにしています。

2)保育活動を広げる工夫

園庭がなく、ワンフロアの保育所のため、保育活動を広げる努力をしています。積極的に戸外活動を取り入れ、散歩、公園遊び、遠足、子ども科学館、図書館等へ出かけしています。室内では、クラス同士打ち合わせながら、常に環境を工夫し、子どもが興味をもった活動が十分できるようにしています。幼児クラスで「サークルタイム」（自分の意見を述べたり、お互いの考えを知る）を設けたり、「瞑想タイム」（夕方合同保育時間帯の前）を設けるなど、職員のアイディアによる取組を行っています。

3)職員の資質向上への努力

研修参加や、各会議・打ち合わせ・日常的な場面などで職員間で意見交換と情報共有を行い、保育理念に沿った保育を目指しています。職員一人ひとりの資質向上のために、全職員が「目標達成シート」「虐待チェックシート」を使用し振り返りを行っています。また園長や主任は、クラス運営や保育内容は、クラスに任せることにし必要時に助言するにとどめています。またクラスの担当チーフをあえて若手に任せ、経験豊富な職員がサポートや育成を担うなど、様々な経験を通して資質向上への努力をしています。

4)実習生及びボランティアの受け入れマニュアル策定

実習生及びボランティアの受け入れに当たって職員用のマニュアルの整備が必要です。実習生の受け入れマニュアルには、子ども・保護者への事前説明、職員への事前説明、実習生に対するオリエンテーションの実施方法などの記載が求められます。また、ボランティアの受け入れには、登録・申し込み手続き、配置、子ども・保護者・職員に対する事前説明、実施状況の記録等の記載が必要となりますので、今後の策定が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

平成30年4月の開所から、今回初めての第三者評価受審となりました。評価機関による受審前説明で、「第三者評価は良い所探します。できてない点もこれから成長できる点として前向きに捉えて下さい」とのお話を頂き、開園から5年間、私達の保育の質向上への取組みがどのような評価であるか、またこれから改善すべき問題点が明らかになることで園の成長につなげる良い機会になるようにしたいと期待をもって取り組みました。受審を受けたことも貴重な体験でしたが、その受審結果を受けて、どのように生かしていくかが重要で、全職員で課題を共有して意見を出し合い、次年度の保育園運営計画に取入れ、改善に向けた取組を継続していきたいと思っています。私達職員が大切にしたいこと・・・保護者と協力した子育てと、子どもの成長した姿を共に喜び・子どもたちが安心して過ごせる楽しい保育園・子どもの主体性を軸に子ども一人ひとりを大切にしたい保育、それらを実現するためには職員自身の主体性を大切にしたいと思っています。自分たちで働きやすい職場づくりや、その子らしさを大切にしたい保育実践を考えてできる職員に成長できるよう、職員の人間性の向上と、保育の質向上を職員一丸となって取組んでいきたいと思っています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり